



男女ともに多様な生き方ができる地域社会を目指して

〜牛久市男女共同参画宣言都市記念式典、うしく男・女フォーラム2015〜

1月24日、市中央生涯学習センターで「牛久市男女共同参画宣言都市記念式典」とうしく男・女フォーラム2015が

開催され、市内・市外から約800人が来場しました。

牛久市では、平成15年から「男女共同参画推進条例」、「男女共同参画推進基本計画」を策定し、条例、計画に沿ったさま

ざまな取り組みを実施してきました。

そこで、男女共同参画社会のより一層の推進を図るとともに、牛久市らしい「スローシティ（ゆとりを持って安心して生活できる支え合いの地域づくり）」と、男性も女性も共に多様な生き方ができる地域社会などを目指すため、「男女共同参画都市宣言」を行いました。

記念式典で池辺勝幸市長は「子どもから高齢者まで皆が希望の持てるまちにしていくには、日常生活で男女共同参画が自然に行われなければならない」とあいさつ。

次に、牛久第一中学校混声合唱団が牛久市男女共同参画都市宣言文と「旅立ちの日に」などの合唱を披露。会場からは割れんばかりの拍手が湧き

宮本さんは、市のさまざまな政策を挙げて、「牛久市は『教育』と『地域』、『家族』と『地域』などを結びつける多くの『橋』が

起りました。引き続き行われた「うしく男・女フォーラム2015」では、「人々がむすびつくまちづくり」交差点型社会への橋をかけよう」と題し、宮本太郎さん（中央大学法学部教授）の講演が行われました。

これらの結びつきを一層進めるためには、①就学前教育、②貧困へのワンストップサービス、③福祉部局と雇用部局の連携強化、④新しい働き方の創造、⑤本格的な学びなおしを可能にする社会教育（生涯学習）が大事。今後

もさらに、弱者や地域を支える交差点型社会を目指して行ってほしいと話しました。



1. 未来を担う高校生(牛久栄進高等学校、牛久高等学校、東洋大学附属牛久高等学校)も案内係などで運営に参加
2. 市内男女共同参画関連団体による展示・販売コーナー
3. 講演する宮本太郎氏
4. 市役所に掲げられた「男女共同参画宣言都市」の懸垂幕
5. 牛久第一中学校混声合唱団による牛久市男女共同参画都市宣言文と合唱の披露



2年ぶりに復活！牛久駅前どんどん祭り

2月7日、「第17回牛久駅前どんどん祭り」が開催され、8000人を超える来場者で賑わいました。この祭りは、牛久駅東口の工事に伴い休止されていましたが、場所を牛久駅西口のイズミヤ北側広場に移動して2年ぶりに復活。

会場には牛久駅前を盛り上げようと、地元の名店10店が出店。お昼時には各店舗に行列ができました。主催者の「牛久駅前かつぱつ化実行委員会」の太田二郎会長は「久しぶりに西口で開催した

が、子どもたちと、そのおじいちゃんおばあちゃんたちが多数来場していたら、非常に賑わいを見せた。今後も地元商店やイズミヤとも協力して駅前の賑わい作りのため、祭りを継続して行きたい」と話していました。

現在、牛久駅東口駅前には、人が集まる「広場」にリフォームすることで、「いこい」と「にぎわい」のある場に生まれ変わろうとされています。平成27年度完成を目指して、工事が順調に進んでいます。



1. 大勢の家族連れが詰めかけた「時空戦士イバライガー」との撮影会は子どもたちに大人気！
2. お昼時には各店舗に行列ができ、もつ煮や大学芋などを食べながら、各種イベントを楽しみました

イタリアのグレーヴェ・イン・キアンティ市産ワイン販売



市内で販売が始まったキアンティワイン

スローシティ文化の先進地、友好都市イタリアのグレーヴェ・イン・キアンティ市産ワインの販売が、市内で開始されました。市では、ワインを通じた経済交流をすることで、地産地消の推進および商業のさらなる活性化を目指しています。

3社5種類の「キアンティ・クラシコ」の販売を皮切りに、今後は「キアンティ・クラシコ」だけでなく種類を増やしていく予定で、ぜひ、ご賞味ください。

【ワイン販売店】天満屋酒店、(株)イケノベ、タマノ酒店、南部珈琲
 【ワイン提供飲食店】旬の味 弥七、Dining いこちや、焼肉すぎうら、鮎処まつき、旬彩や、迅

※2月20日現在

イタリアから友好の証「テラコッタ」が寄贈

平成25年12月16日に、牛久市とイタリアのグレーヴェ・イン・キアンティ市が友好都市になったことを記念して、牛久駅東口を彩るレンガを作ったマネットィ社から、テラコッタ(素焼きの焼き物)が寄贈されました(製作はカルボネ社)。

マネットィ社のレンガは、フィレンツェにあるドウオーモの屋根の修復にも使われ、ウフィツィ美術館にあるポッティエツィの名画「春」が掛かる廊下にも敷き詰められています。14世紀から続く、職人の手仕事のみで仕上げる伝統的な方法は、マネットィ社やカルボネ社などに受け継がれています。市役所本庁舎2階口ピー入り口に展示してありますので、ぜひご覧ください。



牛久市の市章が彫られているイタリアの素焼き「テラコッタ」

県内初！大規模災害時に備えた協定を締結

2月3日、市役所庁議室で「大規模災害時に備えた石油燃料の備蓄等に関する協定」締結式が行われました。

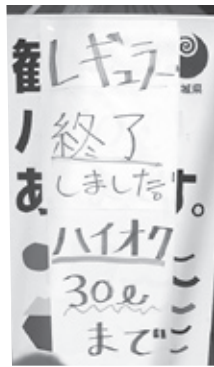
この協定は、大規模災害時に石油燃料の確保を行うため、県石油業協同組合牛久部会11社に協力をお願いし、賛同いただいた市内3カ所の給油取扱所で、事前に市が石油燃料を購入する「流通在庫備蓄方式」として備蓄し、災害時に緊急車両等に使用するものです。これにより、円滑な災害対策を実施し、市民生活の安定を図ることを目的としています。



市内3カ所の給油取扱所代表者(写真左から3人)と締結した協定



東日本大震災直後、ガソリン給油のため長蛇の列を作る自家用車



震災当時、ガソリン不足を伝える看板

池辺市長は「東日本大震災の際には市内の病院や介護施設などもガソリンが手に入らない事態となり支障をきたした。その教訓から、まずは緊急車両を含めた行政の車の燃料を確保すべきということになった」と述べ、協定の意義を語りました。一方、市内ガソリンスタンド代表の塚本裕己さんは「これを機会に、市と業者間の連絡を密にし、災害に強いまち『牛久』を目指したい」と話しました。

消防車両を最新式に更新



最新式の泡消火システム付消防ポンプ車と広報車(写真右から)

昨年12月、牛久消防署に泡消火システム付消防ポンプ車(以下C A F S キヤブス)と牛久東部出張所に広報車が更新配置されました。

C A F S は従来の水による消火方法のほか、泡放射による窒息消火が可能となりました。空気を多く含んだ泡を使用するためホースが軽く、消火活動中の隊員の負担が軽減されます。また、少ない水を泡に変換するため小規模火災時の水損防止に大変効果的です。広報車は今までのミニバンタイプからワゴンタイプへ更新され、車内空間が拡大。資器材や活動人員の搬送、災害現場での指揮所の早期展開が可能となりました。

めざせ生涯かっぱつ！水中運動で健康づくり

2月8日、牛久市水中運動健康教室「アクアサンデー」が開講しました(左写真)。これは、市民の健康寿命延伸を目指し、生活習慣病予防や介護予防に取り組む「生涯かっぱつプロジェクト」の一環として開始した新規事業です。

プログラムは2つ、働き盛りの生活習慣病予防を目的とした「アクアシェイプ」と膝痛・腰痛予防のための「アクアリラックス」。開講式では筑波大学名誉教授・医学博士の野村武男先生による笑いたっぷりの健康講話で意欲増進。

第1期生、3クラス52人が、タツプスイミング牛久育泳館の温水プールで水中運動に取り組みました。参加者からは「楽しかった」という感想が聞かれました。第2期生の募集は今後、広報うしくで掲載予定です。



健康管理課 ☎ 内線1743

食べ残しを活用して土作り 学校給食ゼロエミッション

2月3日、「学校給食ゼロエミッション」の一環で、中根小学校で給食の食べ残しを使った土作りが行われました。

「ゼロエミッション」とは食べ残した給食を廃棄せず、自校内で処理することをいい、循環型社会を



1. 給食の食べ残しを畑に搬入する児童
2. 鍬を使って食べ残しを土と混ぜる
3. 食料自給率について説明をする
NPO エコライフの川谷さん(写真右)



学ぶ環境教育として平成14年から始まりました。現在、給食の食べ残しは、NPOエコライフ(川谷睦子代表)の実践指導の下、市内全8小学校の4～6年生(奥野小学校は3～6年生)がEM菌を用いて堆肥化し、学校の農場で作物を育てたり花壇などに使用しています。

冬晴れのこの日、同校6年生の児童は、ぼかし(EM菌を使った発酵促進材)を混ぜた給食の食べ残しを近くの畑に搬入。土作り班の児童たちが鍬を使い食べ残しを土と混ぜました。

土作りに参加した飯塚星名さんは「食べ残しで土を作って、その畑で育てたジャガイモなどを給食で食べています。大変だけど、自分たちで育てた野菜を使った給食はさらにおいしく感じる」と話

しました。実践指導を行った川谷さんは『学校給食ゼロエミッション』を通じて、何気なくある土・水・空気などは貴重なものなんだということを知ってもらい、無駄にしないことを学んでほしい。また、生きる力を育んでほしい」と話しました。

牛久市子ども・子育て 支援事業計画を提出



計画書を池辺市長に手渡す市川委員長(写真右)

2月10日、子ども・子育てで会議の市川圭一委員長から池辺勝幸市長に「牛久市子ども・子育て支援事業計画」が提出されました。

事業計画は5年を1期として、平成27年度から平成31年度までの計画となっています。この計画は、国の示す指針に基づき、潜在的なニーズおよび将来的なニーズの変化を的確に捉え、教育・保育の給付、地域子ども・子育て支援事業を円滑に実施するために策定しました。計画の基本理念を「子どもも親も地域で育つまちうしく」と定め、あたたかみのあるまちづくりを目指し、進めていきます。

チャリティイベントの 売り上げから車椅子を寄贈

2月12日、うしく現代美術展から、牛久市に車椅子3台が寄贈されました。この車椅子は昨年11月に開催された「第20回記念うしく現代美術展」の記念イベント「チャリティ小作品」(展覧会期間中に出品作家の小作品を展示販売)の作品31点、47万1000円の売り上げの一部で購入されたものです。

中村義孝委員長(左写真中央)は「うしく現代美術展」が20年間続けられたのは市民皆さまのおかげ。使っていただけなら嬉しいです」と話しました。この車椅子は、市中央学習センター来場者用に利用されます。



スローシティのまちづくりを目指す牛久市への提言 〜かつば大交流会開催〜

1月31日、市中央生涯学習センター大講座室で「かつば大交流会」が行われました。この催しは「スローシティのまちづくりを目指す牛久市への提言」をテーマにパネルディスカッションを行うもので、自分たちの住む地域への関心を高め、愛着を持ち、まちづくりに参加しようとする態度を養いました。

市内各小中学校の児童・生徒と三重県大紀町立七保小学校児童と卒業生からなる「未来塾」の皆さんが環境学習などの成果についてパネルディスカッションを実施。市内のアサザ基金代表、飯島博さんがコーディネーターを務める中、代表校（奥野小、中根小、牛久二



三重県から遠路駆けつけて発表をする「未来塾」の皆さん(写真後列)

中、牛久南中)と未来塾の皆さんは、学習内容についてのプレゼンテーションを行いました。

森林が90%を占める大紀町は自然に恵まれている一方、過疎化が進み、荒れた田畑が増えている現状がありました。その中で、地元の子どもたちを中心に、「七保のお宝 あたたかきずな茶」を商品化。「地元の自慢できるもの＝宝物」という子どもたちの話し合いから誕生した取り組みなどを発表。

牛久の子どもからは「七保の子どもたちが、地元の宝物を見つけて商品化した努力を見習い、自分の住んでいる地区でも宝物を見つきたい」と刺激を受けていました。



休憩時間に池辺市長へ直接まちづくりについて話をする子どもたち

民間自治功労者表彰式

茨城県市長会自治功労者表彰式



2月9日、水戸市内で「平成26年度茨城県市長会民間自治功労者表彰式」が行われ、牛久市からは根本勝さんが表彰されました。

根本さんはこれまで計17年にわたって、むつみ行政区長として市役所とのパイプ役となり、豊かな地域づくりに尽力され、地方自治伸展のために多大な貢献をされました。平成22年に完成の「むつみ会館」建設に当たっては、強いリーダーシップで区民の意見を集約しました。現在、同会館は地域住民の「たまり場」として常時開放されています。

剣道の全国大会出場決定

12月14日、茨城県武道館で行われた「第31回茨城県スポーツ少年団剣道大会」の中学女子個人戦で牛久市代表の駒田奈都選手(清流剣友会)が準優勝しました。この結果、3月27日から29日に埼玉県立武道館で行われる「第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会」への出場が決定しました。



宝くじ助成金で防災資機材整備

女化西、ひたち野東、第8岡見、第2つじが丘、刈谷および下町の各防災会では、財団法人自治総合センターが募集した「平成26年度コミュニティ助成事業」による宝くじ助成金を受けて、防災資機材を整備しました。各防災会では、自分たちの地域は自分で守るという意識のもと、自主的な防災活動に積極的に取り組んでいて、今後も安心して暮らせる地域づくりの推進に一層の活躍が期待されています。

問 交通防災課 ☎ 内線1682